

特別寄稿 19世紀に米国でフットボールをプレーした桑田権平

日本人最初のフットボール選手

文・写真◎市川 新 (元関東学生アメリカンフットボール連盟副理事長/元日本アメリカンフットボール協会理事)
text & Photos: Arata Ichikawa, Ph.D.

米国で現在のアメリカンフットボールの形式のゲームが行われたのは1874年。バーバード大学とマギル大学の大学対抗戦に由来する。その僅か数年後に米国に渡った桑田権平という日本人がフットボールをプレーしたという史実が解った。これまで日本人が米国でフットボールをプレーしたのは、1917年にシカゴ大学にコーチ理論を実地で学んだ岡部平太が初めとされてきたが、それにさかのぼること20数年前、日本で初めて公式にフットボールゲームが行われた1934年(昭和9年)からは、40年以上も前のことだった。東京大学アメリカンフットボール創始メンバーで、元日本協会理事の市川新氏が現地を訪ね、その衝撃の事実を明らかにした。



WPIの2011年度GOMPEIのTシャツを着る筆者。WPIの学生には東大ウォリアーズのTシャツをプレゼントした

衝撃の「自伝」

日本でのフットボールの歴史は、1934年(昭和9年)に早稲田大学、明治大学、立教大学でそれぞれアメリカンフットボール部が創立され、今でいうリーグ戦が始まった時と言われ、日本協会ではその年をフットボール元年としている。しかし、それ以前に米国でフットボールをしていた人がいたのではないかという思いがしていた。日本体育学会の資料(日本体育学会体育史専門分科会・1967)には、大正初期の1910年代に東京高等師範(現筑波大学)の岡部平太ほかが米国に留学してフットボールの練習に参加した

こと、さらに1927年に同師範がフットボールの研究を行い、同年6月に成蹊高校のグラウンドで日本最初の試合を行ったとの記載がある。この時はハワイ大学の日本人学生が指導したと書かれている。その前という、資料がより限られており、日本人最初のフットボールプレーヤーを実証することはほとんど不可能で諦めかかっていたが、たまたま桑田権平という人の「自伝」(桑田権平・1958)というのを見つけたところ、以下の記事に出会った。

1893年のウースター工科大学(当時)イヤーブックのフットボールのページ。フットボールで負傷し、頭に包帯を巻いてベンチに座る桑田権平の自画像が載っている



壮年時代の桑田権平(スピンドル製造研究時代)

桑田権平(以下権平と記す)は、1870年(明治3年)生まれ。慶応幼稚舎卒業後の1883年(明治16年)、満13歳の時に渡米。米国で中高を経て、1890年(明治23年)にボストン近郊のウースター工科大学(現在はWorcester Polytechnic Institute、略称WPI)機械工学科に入学した。ボストン近郊のニューイングランドには、北海道大学にきたウィリアム・スミス・クラーク先生が勤務していたアマースト大学があり、その当時日本から多くの留学生がいた。クラーク博士とはほぼ同時代に来日し、石炭・石油の探査を行ったライマ

ン(Benjamin Smith Lyman、1835-1920)が帰国後、叔父の桑田知明を招へいた際に権平は同行した形で渡米している。ライマン氏はボストン近郊のノーザンプトン市出身でハーバード大学に学び、オハイオ州等の地質調査をしたのちにドイツ、フランスに留学して鉱山学を学び、インドの石油調査をした後に日本を訪問。特に北海道の石炭・石油の調査に従事した。権平の中学・高校時代にかけて、ライマン氏が保証人のような形で面倒を見ていた。権平が中学・高校を米国で過ごしたことは、完全に米国文化を吸収した米国人になりきっていたことでもあり、クラスの人気者となって各種の校内行事に参加していたようである。

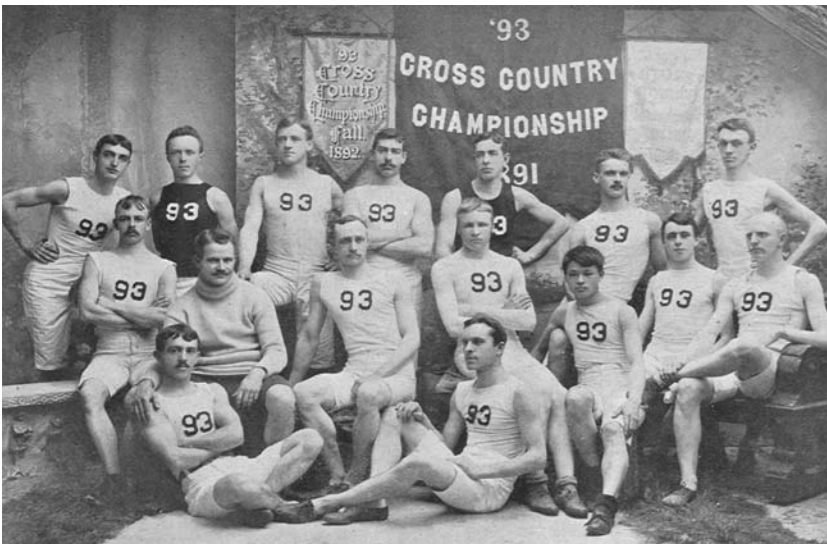
トリーと呼ばれていた)にも参加したし、フットボールをしたようである。それらは高校時代になじんでいたためと思われる。因みに日本ではフットボール部に入ると大学では4年間フットボール漬けになるが、米国ではシーズン制で春と秋のシーズ以外に他のスポーツをするのが普通なのである。

この自伝の記載が本当なら、権平がフットボールをしたのは今から約120年前のことになり、フットボール元年の1934年より43年以上前、岡部平太の時代よりさらに20年ほど前ということになる。「大発見」だった。WPIに問い合わせたところ、1893年卒業組のイヤブック(日本という卒業文集)が作られており、現在も同大学の図書館(アーカイブ)に保存されていることを知った。その中に入っていると、その編集長は権平の親友のロビンズ氏(Robinson、AC、1893)で、権平はそのイヤブックの編集助手の一人として、その本の中に数十枚のスケッチを描いていることが分かった。権平は器用で絵の才能があったようで、学生時代から様々なデッサンを描いており、そのいくつかは現在も残されている。

紹介記事には権平が選手と一緒に写っていないが、その部を紹介したページに、頭に包帯を巻いてベンチで座っている選手がいる(前ページ右)。これは「権平の自画像」で、これこそが彼が米国でフットボールをしていたことを証明する「証拠」と思いこむに掲載する(Comins・AC、1893)。

この頃米国でフットボールが産声を上げたばかりで、極めて乱暴な競技で怪我がたえなかつた時代だし、防具すらままならぬ時代であった。

桑田権平：1958：自伝、協和出版(私家本) p43
日本体育学会体育史専門分科会：1947：日本スポーツ百年の歩み、ベースボールマガジン社
Worcester Polytechnic Institute：2011：Tech Bible, pp25-29.
Comins：AC：1893：Ibid 3, pp96-99
Comins：AC：1928：History of the '93 Goat, WPI Jour. Vol.9, July, pp153-154.
http://wp.wpi.edu/connection/2011/02/23/happy-birthday-gompel/



クロスカントリー競技で優勝した1893年組のメンバー。前列右から3人目に権平の姿がある

この本の中に先に述べたクロスカントリーで優勝した時に一緒に走った選手との写真(Comins・AC、1893)が掲載されている。前列右から3番目の人物が権平である(左写真上)。フットボール部の

その頃の米国でフットボールが産声を上げたばかりで、極めて乱暴な競技で怪我がたえなかつた時代だし、防具すらままならぬ時代であった。

その頃米国でフットボールが産声を上げたばかりで、極めて乱暴な競技で怪我がたえなかつた時代だし、防具すらままならぬ時代であった。

その頃米国でフットボールが産声を上げたばかりで、極めて乱暴な競技で怪我がたえなかつた時代だし、防具すらままならぬ時代であった。

■参考文献
Comins：AC：1893：Aftermath of '93, p7
Comins：AC：1893：Ibid 2, p150
Comins：AC：1893：Ibid 3, pp96-99
Comins：AC：1928：History of the '93 Goat, WPI Jour. Vol.9, July, pp153-154.